

## 老人医療・福祉施設におけるレクリエーションワークおよびレクリエーション専門職の役割に関する研究（1）

小池和幸（仙台大学）

### I. はじめに

最近の医療・福祉領域におけるレクリエーション・サービスの実践は、特に、高齢者に関与するところにおいては珍しいことではなくなってきたのが現実である。しかも、機能回復を目的としたリハビリテーションの一環としてレクリエーションプログラムがサービスされる場合。利用者個人の施設生活の質の向上を目的としてサービスされる場合など多様化している。それらのレクリエーション・サービスは施設によっては専属のレクリエーション援助担当者（レクリエーションワーカー）を置いて実施されるケースもみられる。医療・福祉の現場では、専門職による仕事の分業化がなされている。レクリエーション・サービスのニーズが一層高まり、将来的にはレクリエーションの専門職が公的に認知される事態が来ることも否定できないと考える。そこで、本研究ではレクリエーションの専門職を雇用している老人医療・福祉施設においてチームアプローチにおけるレクリエーション専門職の役割の明確化を試みることを目的とする。合わせて、レクリエーションワーカーのこの分野における専門職種としての将来性を検討する。

### II. 研究方法

同一医療法人の老人保健施設N苑、I病院・老人性痴呆患者治療病棟に勤める看護、介護、リハビリテーション、相談職員など38名について自由記述にてレクリエーション・サービス及びレクリエーションワーカーの仕事に関する認識調査を実施した。

レクリエーション・サービス及びレクリエーションワーカーの仕事に関する認識調査（レクリエーションワーカーの仕事に関する調査）項目は以下のとおりである。①性別、②年齢、③職種、④経年数、⑤レクリエーションの資格の有無、⑥Q1：レクリエーションワーカーと聞いてどのような仕事をする人だと思いますか。⑦Q2：レクリエーションワーカーの仕事をするにはどのような能力が必要だと思いますか。⑧Q3：ここの施設におけるレクリエーションワーカーの仕事はどのようなものだと思っていますか。⑨Q4：ここの施設におけるレクリエーションワーカーはどのような役割や意味があると思えますか。

### III. 老人保健施設N苑、I病院のレクリエーション・サービス

老人保健施設N苑のレクリエーション・サービスは回想法、歌と体操、スポーツレク、化粧療法、カラオケ倶楽部、手工芸、男性グループ、作業活動などがあり、レクリエーションワーカーをはじめ、作業療法士や介護職員などで役割分担して運営されている。

I病院・老人性痴呆患者治療病棟のレクリエーション・サービスは集団OT、趣味活動、スポーツレク、回想法、お茶の会・誕生会、園芸活動、創作活動、健康体操、などがあり、レクリエーションワーカー、作業療法士、介護職員で役割分担し運営されている。

両施設は、10年前より専任のレクリエーションワーカーを1～3名雇用している。

#### IV. 結果と考察

各質問の回答を分類すると以下のような項目にまとめることが出来た。

質問1からは、「レクリエーション・サービスの対象」、「レクリエーション・サービスの目的」、「レクリエーションワーカーの仕事内容」、「レクリエーションワーカーという人」について。質問2からは、「レクリエーションワーカーの資質・パーソナリティ」、「知識・技術」について。質問3からは、「手段・方法」、「効果・役割」について。質問4からは、「効果・役割」について。項目ごとに、具体的なキーワードを拾い上げてみる。

レクリエーション・サービスの対象については、余暇時間、利用者、精神科、老人患者、お年より、集団に対して。

レクリエーション・サービスの目的は、楽しさや喜びを引き出す、機能低下を防ぐ、楽しみと笑顔をつくる、楽しい時間をつくる、機能維持・向上、余暇生活を充実する、コミュニケーションをはかる、自立支援、社会復帰、生活に刺激を与える、残存応力を活かす、QOLの向上、生きがい支援、余暇活動のコーディネート、楽しい活動・趣味の提供、レクリエーション用具を用いての治療、治療的な視点ではない活動提供、楽しみながらリハビリテーションなど。

レクリエーションワーカーの仕事内容は、レクリエーション計画と実施、障害の程度に合わせた活動の提供、楽しみながら身体を動かす、ゲーム、運動、歌、体操など。

レクリエーションワーカーの人としての認識は、専門的な人、集団から個別援助までの知識を持った人、レクリエーションを考える人、実行する人、OTとは違った人、交流を考える人など。

レクリエーションワーカーの資質・パーソナリティは、利用者のことを考える、一緒に楽しめる人柄、トライする気持ち、柔軟性、人をひきつける能力、体力、なじみやすさ、ユーモアのセンス、健康で明るい、表現力豊か、明るさ、誠実さ、洞察力、細やかな心配りなど。

レクリエーションワーカーの知識・技術は、利用者の興味を引き出す、個人の性格等の把握、話術、全体を見渡す、ゲームを考える、人をまとめる能力、人を笑顔に出来る言葉、コミュニケーション、計画、踊り・ダンス、歌唱力、場の空気が読める、創造力・創意工夫、行事の企画・実行、アクティビティ、レクリエーション種類の知識、グループワークの知識・技術など。

レクリエーションワークの手段・方法は、集団レクリエーション、軽運動、ゲームや歌、身体を動かすこと、個別レクリエーション、人と交流、レクリエーションの企画・実行・指導、院外のレクリエーション、病棟へのアドバイス、集団療法のリーダー・サブリーダー、レクリエーション遊具の使用法の指導、交流の楽しさを伝えるなど。

レクリエーションワークの効果・役割は、社会的意識、仲間意識、楽しい気分、達成感、気分転換、楽しみの提供、笑顔を引き出す、社会復帰、楽しい時間をつくる、ADLの低下を防ぐ、精神の安定・活性化、QOLの向上、日常生活の活性化、生活のハリ、イキイキとした生活、明るい気持ちになる。

質問4からのレクリエーションワークの効果・役割は、楽しさや喜びの提供、楽しい笑顔を生む、気分転換、人間関係の潤滑油、楽しい気持ちをつくり出す、楽しみの時間をつ

くり出す、余暇時間の充実、リハビリテーション、社会復帰、交流の場の提供、利用者と職員の間につなぐ、治療、生きがい支援、地域住民とのつながりを持たせる、メリハリのある生活、残存能力を引き出す、機能維持、ストレスの解消、生きがいを感じる、精神安定・活性化、QOLの向上、意欲の向上、寝たきり防止、痴呆予防、活力の提供

表1 医療・福祉領域におけるレクリエーションワーカーの仕事に対する認識  
(老人保健施設N苑、I病院・老人性痴呆患者治療病棟の場合)

<p style="text-align: center;"><b>レクリエーションサービス対象</b></p> <p>余暇時間、利用者、精神科、老人患者、お年より、集団</p>
<p style="text-align: center;"><b>レクリエーションサービス目的と効果・役割</b></p> <p>楽しさや喜びを引き出す、機能低下を防ぐ、<u>楽しみと笑顔をつくる</u>、<u>楽しい時間をつくる</u>、機能維持・向上、余暇生活を充実する、コミュニケーションをはかる、自立支援、社会復帰、生活に刺激を与える、残存能力を活かす、QOLの向上、生きがい支援、余暇活動のコーディネート、<u>楽しい活動</u>・趣味の提供、レクリエーション用具を用いての治療、治療的な視点ではない活動提供、<u>楽しみながら</u>リハビリテーション、仲間意識、楽しい気分、気分転換、笑顔を引き出す、ADLの低下を防ぐ、精神の安定・活性化、日常生活の活性化、明るい気持ちになる、寝たきり防止、痴呆予防、活力の提供、ストレスの解消</p>
<p style="text-align: center;"><b>レクリエーションサービス的手段・方法・内容</b></p> <p>集団レクリエーション、軽運動、ゲームや歌、身体を動かすこと、個別レクリエーション、人と交流、レクリエーションの企画・実行・指導、院外のレクリエーション、病棟へのアドバイス、集団療法のリーダー・サブリーダー、レクリエーション遊具の使用法の指導、交流の<u>楽しさ</u>を伝える、障害の程度に合わせた活動の提供、<u>楽しみながら</u>身体を動かす</p>
<p style="text-align: center;"><b>レクリエーションワーカーに必要な知識・技術</b></p> <p>利用者の興味を引き出す、個人の性格等の把握、話術、全体を見渡す、ゲームを考える、人をまとめる能力、人を笑顔に出来る言葉、コミュニケーション、計画、踊り・ダンス、歌唱力、場の空気が読める、創造力・創意工夫、行事の企画・実行、アクティビティ、レクリエーション種類の知識、グループワークの知識・技術</p>
<p style="text-align: center;"><b>レクリエーションワーカーの資質・パーソナリティ</b></p> <p>利用者のことを考える、一緒に楽しめる人柄、トライする気持ち、柔軟性、人をひきつける能力、体力、なじみやすさ、<u>ユーモア</u>のセンス、健康で明るい、表現力豊か、明るさ、誠実さ、洞察力、細やかな心配り</p>

以上の結果からこの施設におけるレクリエーションワーカーの仕事の認識について、まとめてみる。(表1)

レクリエーション・サービスの対象は人(患者)である。レクリエーション・サービスの目的はリハビリテーションなど治療的な側面と生活の向上、生きがい支援、余暇生活の充実を図ること、人や地域社会と交流すること。主なレクリエーション・サービスの手段はグループや個別に対してのゲームや歌、体操、運動、行事など。

レクリエーション・サービスやレクリエーションワーカーの認識におけるキーワードの一つとして「楽しみ」があげられる。

今回のレクリエーションワーカーの仕事認識は従来の「レクリエーション」という言葉から連想する「レクリエーションを説明する言葉：遊び、余暇、気晴らし、休養、娯楽、元気回復、リフレッシュ」、「レクリエーションの気分・感情を表す言葉：楽しい、面白い、愉快、気楽、やさしいなど」、「レクリエーションの具体的な内容(種目)：ゲーム、スポーツ、歌、カラオケ、フォークダンスなど」、「レクリエーションとともにあるもの：自然、自由、仲間、集団、グループ、ふれあいなど」のイメージ<sup>1)</sup><sup>2)</sup>と大きく異なるものではなかった。

#### <文 献>

- 1) 小池和幸(2003)医療、福祉における福祉レクリエーションワーカーの専門職性と成立要件の整理. レジャー・レクリエーション研究 51 p 34-37
- 2) 小池和幸(1993)老人施設とレクリエーションケア. 竹内孝仁編著 明日の高齢者ケアNO7施設のケアスキル. 中央法規：東京. p 241-262
- 3) 池田勝他(1989)レクリエーションの基礎理論. 杏林書院：東京. p 1-10
- 4) 前掲書2 p 141-154
- 5) 余暇生活・レクリエーション総合研究所(1997)Leisure&Recreation 自由時間研究特集 福祉レクリエーション援助の可能性. 日本レクリエーション協会
- 6) 福祉士養成講座編集委員会編(2003)レクリエーション活動援助法. 中央法規：東京. p 10-11

---

<sup>1)</sup> 福祉士養成講座編集委員会編(2003)レクリエーション活動援助法. 中央法規：東京. p 10-11

<sup>2)</sup> 池田勝他(1989)レクリエーションの基礎理論. 杏林書院：東京. p 1-10